会　議　議　事　録

<table>
<tr><td>会　議　名</td><td colspan="3">令和５年度　学校関係者評価委員会</td></tr>
<tr><td>開 催 日 時</td><td colspan="3">2023 年　5 月 19 日（金）　14:00～16:00</td></tr>
<tr><td>会　　場</td><td colspan="3">東京福祉専門学校　第３校舎 2-4 教室</td></tr>
<tr><td rowspan="2">参　加　者</td><td>委員等</td><td>８人</td><td>卒業生代表：西田　憲司様（特養きく）
保護者代表：澳津　優子様（こども保育科１年生在籍
高等学校代表：髙部　英彦様（正則学園高等学校）
地域代表：赤羽根　智英子様（くすのき　さざなみ会）
業界関係者：池田めぐみ様（特養なぎさ和楽苑）
：若松　弘樹様（児童養護施設聖友学園）
：皆川　隆太様（就労移行支援事業所 natura）
：中里　武史様（東京都作業療法士会）</td></tr>
<tr><td>事務局</td><td>12 人</td><td>東京福祉専門学校
学校長　小林　和弘
副学校長　白井　孝子
運営本部長　小川　昭久（学校法人滋慶学園評議員）
事務局長　松川　勝吉
教務部長　西田　茂男
教務部長代理　堀　延之
事務部長　形本　裕子
福祉事業センター長　福原　康久
広報センター長　松川　勝吉（兼務）
キャリアセンター長　鈴木　恭雄
教務事務・コンプライアンスセンター長　坂本　美生
書記　吉岡　修平</td></tr>
<tr><td>会　議　録</td><td colspan="3">１．学校長挨拶（小林）
本日はご多用の中、2023 年度学校関係者評価委員会にご参加いただきありがとうございます。
日頃からご支援賜り御礼申し上げます。
3 年間新型コロナの影響を受けてまいりましたが第八波を終わりにしておかげさまで大きな波も来ず一定数は新規感染者は出ておりますが WITH コロナとなってまりました。卒業式も保護者の方の制限はありましたがほぼ従来の形で大きな問題もなく行う事ができた。
5 月 8 日からは感染症 5 類となり、学校生活も基本的な感染症対策は続けていきながら普通の学校運営生活を実現していきたい。
18 歳人口の減少も進んでいる中で福祉、保育、介護、医療に進みたいという学生も少なくなっており、保育の学生はそこそこいますが介護苦戦を強いられている。
国際的にも様々な理由で留学生が減っている状況。</td></tr>
</table>

	教育の DX も進んでおりますし、社会状況が大きく変化をしている中で 3 年前に戻るわけではなく、新しい WITH コロナの時代の中で学校運営をしていく。 本日は忌憚のないご意見をいただき、今後の学校運営や教育活動の向上に活かしていきたい所存です。 ご意見を頂戴いただけますようよろしくお願いいたします。 **２．2022 年度事業報告（松川）** ●学校概要 職業実践専門課程として認可されるためには自己点検自己評価を行い、その上で学校関係者評価委員会を行い、その内容を次年度の事業計画に活かしていくことが必要になります。もう一つ教育課程編成員会というものを学科毎にカリキュラムを来年どうしていくかという会議を業界の方にお越しいただき年 2 回行っています。 評価表に沿ってご説明をさせていただきご意見および評価をいただくことが本会の目的となりますのでよろしくお願いいたします。 〇学校概要 ・沿革（抜粋）資料参照 1989 年に開校以来新たな校舎や学科を開設しております。 2022 年度より IT 医療ソーシャルワークを設立。 同じく 2022 年度から北口校舎を開校し、心理カウンセラー科が移動をし、2023 年度より社会福祉科が移動をしております。 また 2023 年度から第一校舎から第三校舎に介護福祉士科が移動をしてまいりました。 ・組織目的 　本校は福祉に関わる人材を養成する教育機関から、福祉・リハビリ・保育などを中心とした業界との様々な形での連携によってそれらを繋げる人材を輩出する「社会と福祉のネットワーク」機関を目指す。 ・ありたい組織像 　そのために関連業界の変化をはじめ、DX・デジタル・ロボティクスなど、社会の変化に対応した「新しい福祉の学び」や「現場体験プログラム」を積極的・継続的に開発し、顧客満足度（CS）の高い教育を提供し続ける。 　また、ひとり一人が強みを成果に活かし、成長によりチームへの貢献を感じられる運営を通じて職員満足度（ES）の高い組織となる。 〇2022 年度事業報告 ・入学者数 社会福祉科：３７名　IT 医療ソーシャルワーカー科：６名 心理カウンセラー科３３名　社会福祉士一般養成科：４４名 介護福祉士科：４４名　作業療法士科昼間部：２３名 作業療法士科夜間部：１８名　こども保育科：７１名 キャリアデザイン科：３３名 総学生数：754 名 ・中途退学者数 社会福祉科：１３名　IT 医療ソーシャルワーカー科：２名 心理カウンセラー科：１８名　社会福祉士一般養成科：３名

	介護福祉士科：１０名　作業療法士科昼間部：２名 作業療法士科夜間部：４名　こども保育科昼間：４名 こども保育科夜間主：３名　キャリアデザイン科：５名 総学生数：６８名（7.9%） 2021 年度 62 名（6.6%） ・国家試験合格率（新卒） 社会福祉士（4 年制）：38.1%　社会福祉士（一般養成）：94.3% 精神保健福祉士（4 年制）：30.6%　精神保健福祉士（一般養成）：97.4% 作業療法士（昼間部）：62.2%　作業療法士（夜間部）：88.9% 介護福祉士（2 年制）：94.1%　介護福祉士（2 年制・留学生）：74.3% 全国平均を割ってしまっている学科もあるのが現状となっています。。 ・施設見学 事業報告後、動画による各学科の授業風景の紹介を実施した。 その後、第１校舎から移動してきた介護福祉士科の新しい実習室を中心に施設見学を実施。 　介護福祉士科教員の岡より施設（介護実習室・入浴実習室等）の概要、使用・運用方法等の説明。 **３．自己点検項目説明（配布資料参照）** ●教育理念・目的・育成人材像　（松川） 理念・目的・育成人材像：評価３ 3 つの建学の理念 　実学教育、人間教育、国際教育を学園の理念としても掲げております。 組織目的、育成人材像 　多様な人や地域に応じたサービス提供を行うための変化・変革が迫られている福祉業界で、変化に対応しながら、それぞれの現場におけるニーズに対応できる「主体性」と「協働する力」を備えた、業界をリードする（良い影響を与える）「学び続ける人材」の育成を目指す。 ●学校運営　（松川） 運営方針：3 事業計画:3 運営組織:3 　「事業計画」にて単年度～5 ヵ年の運営方針や組織を見直している。 各部署の会議による決定を最高議決機関である「運営会議」で承認。 人事・給与制度：3 　2021 年度より新人事給与制度を実施。HRMOS という WEB システムを活用している。 意思決定システム：3 　各部署の会議による決定を最高議決機関である「運営会議」で承認 情報システム：3 　クラウド上で運用できる「業務システム」や「サイボウズ ガルーン」、「Microsoft Teams」などの各種情報システムを活用している。 ●教育活動（西田）

	目標の設定：3 教育方針・評価：3 　学科ごとに毎年、関連業界や社会のニードを踏まえて「教育目標」「養成目的」を設定し、学生便覧で明示している。また、各学科で教育課程編成委員会を組織して関連業界からの意見を取り入れている。 成績評価・単位認定：3 　成績評価に関する規定は学生便覧等に明示しており、卒業・進級判定会議を通じて認定をしている。 資格・免許等の指導体制：3 　国家試験を受験する学科については毎年合格率の目標を設定し、指導している。昨年はオンライン授業から対面に戻しつつあった１年の中、オンラインが学科によって反応が分かれてしまった結果にばらつきが出てしまった。オンラインでの学習効果の検証や多様な学生に対する指導体制に関してまだ課題がある。 教員・教員組織：2 　専修学校基準や養成施設基準に合致した教員を配置しており、各学部は学部長を責任者とした体制をとっている。しかし、教職員の質の向上への取り組みに関しては、コロナ禍で研修等が中止になったりなど、今後さらなる取り組みが必要となっている。 ●学修成果　(堀) 就職率：2 　就職率については、担任とキャリアセンターの協力体制、他の職員を巻き込んでの就職支援に取組み、「職業人教育を通じて社会に貢献する人材育成」を目指し 98%の専門職就職を達成することができている。ただ、3 月末の未就職が 20 名おり、最終決定は５月末であり、学生の早期就職意識向上と資格取得向上があげられる。 資格免許の取得率：2 　学科によって評価は異なるところがある。 修業年限が長い学科の結果が下がってしまっている結果となっている。 ２年生から 4 年生に掛けてコロナの影響を大きく受けてしまった事が考えられる。 4 年時の国家試験対策でサポートをしきれなかった事が原因として考えられる。 受験対策だけでなく、職業意識を高められるようにカリキュラムを考え直している。 介護福士科に関しては留学生の合格率が向上できている。 卒業生の社会的評価：3 　卒業生の社会的評価は、業界ヒヤリングや実習巡回で確認。１年未満の離職率は 3.3%である。離職者に対しては、相談業務も行っており就職支援している。本年度からは年に 3 回状況確認、業界訪問を強化し把握に努める。 　●学生支援　（西田） 就職等進路：3 中途退学者への対応：2 　多様化する入学生の層に対してチームでどのようにアプローチしていくかが課題であり、2023 年度は特に 1 年生に対し、学科を超えたチームで退学を防止していく取り組みを行っている。 学生相談：3

	学生生活：3 　コロナ禍の状況の変化に合わせた、集団「クラス」、個人をそれぞれ見ていく必要がある。 保護者との連携：3 卒業生・社会人：3 　卒業後の就職支援については「生涯就職支援システム」として運用されている。後はオンラインや DX・同窓生をフルに活用し、学園で運営する JCareerSchool の情報を頻繁に共有していき、卒後支援を充実させていく。 ●教育環境（形本） 施設・設備等：3 　第 1 校舎の介護実習室を第 3 校舎 3 階へ移設。介護ベッド・入浴施設など最新の機器に入れ替えた。北口校舎（駅前）を社会・心理学科用に改修。ゼミ・演習授業の拡充のため、演習室や図書スペースを増設した。 学外実習・インターンシップ等：3 施設実習は一部コロナ感染症対策により、学内での振替があるものの、徐々に受け入れ施設が広がっている。 2022 年度学園祭を再開。在校生・卒業生・高校生・近隣の方 1285 名が参加。 防災・安全管理：3 コロナ感染症対策のため全校あげての実施は叶わなかったが、学生向けに避難経路や防災行動の啓蒙動画を作成、全校学生が閲覧した。 ●学生の募集と受け入れ　(松川) 学生募集活動：2 　コロナの影響による社会人層、留学生層の激減に対する対応に苦慮しており、高校新卒層へのシフトを強化するため学科の再編成を実施中。 新型コロナウィルス感染拡大以降、オンラインを活用したオープンキャンパスや入学選考（面接試験）を実施。社会情勢を鑑みながら、柔軟に対応した。 　高校への訪問やガイダンスを徐々に再開し、高校へ情報を提供している。更なる関係の強化に努めたい。 入学選考：3 　コンプライアンスを鑑みた上で整理をしている。 学納金：3 　入学選考や学納金は募集要項に明記している。見直しが必要な場合、その根拠が適正であるかを理事会・評議員会で決議し、決定している。 ●財務（形本） 財務基盤：3 予算・収支計画：3 　財務状況においては専門部署とともに予算の執行状況を分析・把握しており問題はない。 監査：3 財務情報の公開：3 　法令にもとづき適切な監査を実施おり、財務状況については毎年決算終了後にホ

	ームページ上で公開を予定している。 ●法令等の遵守（形本） 関係法令、設置基準等の遵守：3 　学校運営に関係する法令・設置基準は順守しており、申請・届け出等も都度実施されている 2022 年 1 月よりコンプライアンスに関わる専門部署を設置。学園本部とも連携し、法令順守の精度向上に努めている。また年 3 回コンプライアンスに関連する研修を実施し、職員の知識向上を図っている。 個人情報保護：3 　個人情報保護については、日本プライバシー認証機構による全職員向けの研修会を毎年実施している。 学校評価：3 教育情報の公開：3 　ホームページ上で公開を予定している。 ●社会貢献・地域貢献（堀） 地域貢献・地域貢献：3 　地域共生社会構築の拠点として江戸川区より委託を受けている「なごみの家」「地域活動相談・支援センターかさい」や地域のこどもたちと保護者に対してプログラムを提供する「こども教室」など地域に根差した貢献活動に積極的に取り組んでいる。これらの事業は地域貢献だけではなく学生が現場実践力を身につける貴重な学習の場としても機能している。 　江戸川区からは潜在的介護人材の職場復帰や介護者の不安を軽減することを目的とした「介護はじめてセミナー」「介護の担い手研修」を委託され運営し、行政と連携した地域貢献をおこなっている。 ボランティア活動：3 　ボランティア活動はコロナ禍のために大きな動きはできなかったが、「高齢者のためのスマホ教室」などいくつかの取り組みは実施できた。 チームソーシャルグットというチームを立ち上げ地域貢献をする場を広げている。 **４．委員からの質問、ご意見** 西田様 　毎年参加をさせていただいております。 コロナの影響がやっとという状況で東京福祉を卒業した留学生を採用させていただきました。日本語の教育は厳しいが国家試験の合格率向上はとても良いと思う。外国人の採用が無縁ではない世界となってきており、避けて通れない運営状況となっている。留学生の採用も含め関わらせていただけたらと思っております。 髙部様 　入学してきたからには学生保護者に対し、結果を出していくという事はとても大切。個別対応ではなくチーム一丸となって対応が必要となっているのではないかと思う。授業については一方的な授業ではなく、双方向での授業が大切だと感じている。今は学生と保護者がフラットな関係である場合もあるので注意が必要だなと感じている。

	→(西田) 　学園の中に弁護士ではないがリーガル部門があり、そこに相談を行っている。 学園を通じて弁護士さんについ先日相談に行った状況。 学校としても様々な事案に対応できるようにシステムを組んでいこうと考えている。合理的配慮に関する研修等やジェンダーの方に向けての対応を行っている。 環境が変わってきたからこそ学園としても学びの場を増やしている。 赤羽根様 　福祉の幅が広い事を感じた。PC 教室等孫のような学生が対応をすることは大変だと思うが今後もどんどん協力をさせていただきますので今後ともよろしくお願い致します。 澳津様 　入学が決まったあとに導入教育で通わせいただいた際に職業意識をしっかりつけて帰って来てくれてとても安心をする事ができた。また卒業してすぐに即戦力となれるカリキュラムが組めている事で更に安心できた。 池田様 　福祉施設がまだまだ現場ではなかなか整える事ができていない中で学校ではしっかりと新しい物を取り入れていると感じた。なかなか即戦力というのは難しいかもしれないがしっかりと学ばれているんだなと感じた。 　しかし現場とのギャップをどのように行っていくのかというのも大切だと思った。卒業してからのサポートはどんな事をしているのか気になった。 →(鈴木) 　求人に関してはネットで見られる物もあるが落とし穴もあるのでまずは学校に求人をいただいているところを優先して学生に説明を行っている。最近の学生の中には ICT を気にする人もいますがそればかりではない。職業体験等を通じて施設を知る事で就職意欲が上がっている。2023 年 3 月に卒業した学生には卒業生から SNS 等で相談が来るケースもある。 皆川様 　障害がある方だけではなく学生にも必要なんだなと感じた。多種多様化する中でどこまで対応ができるのかという所で入口と出口を合わせていけるかを考えている。個別の対応に手をさくと人が足りなくなるという所で対応を考えている。 他の道も一緒に考えていく事も時には必要ではないかと思う事もある。 若松様 　取り組みとしてち密に取り組まれているなと感じた。しかし結果に繋がっていないと感じた。どんな地域をターゲットにしているのか。募集停止をした学科の理由と中途退学の理由は。 →(松川) 　都内と千葉を中心にターゲットにしている。一度分野も含め広がりすぎた学科を整理し、学校運営をコンパクトにして内容を充実するために再構築を実施している。 募集中止の IT 医療は、IT 分野と医療分野の志向をマッチすることが困難であった。 中途退学の理由の中には人数が少ないが故に影響が出ているのではないかと考え対応をしている。 中里様

	作業療法士の給与水準は変わってきていない為、仕事量と給与があっていないと感じている方が増えてきているのではないかと思っている。現場に出ている作業療法士が減っている事が分かっている。やりがいや魅力を学校と業界が一緒に進めていく必要があるのではないかと感じた。卒業するだけではなく、業界で活躍してもらえるように業界としても盛り上げていきたいと考えている。 ５．終わりに（小川） 一番の悩みは 309 名の入学者は過去最低の入学者になっている。 国家試験の合格率もこの学校だけでなく、学園全体でコミュニケーションが苦手等もあり苦戦している現実がある。学生が減っている現実を踏まえてどのように福祉人材を集めていくのかを考えていく必要があると考えている。 皆様のご意見は学園の事業計画に反映をさせていただいております。 我々が気付かない視点を皆様からのご意見を事業計画に取り入れさえていただいております。 今後も何かございましたらご意見をいただけますと幸いです。 以上